

**G20 資源効率性対話ロードマップ（仮訳）**  
**G20 資源効率性対話（2019年10月9-10日東京・日本）**

G20 資源効率性対話（以下「G20 対話」という。）は、より効果的にその活動を推進するため、本ロードマップを作成した。これは、2019年6月に採択された持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会合のコミニケの記載のとおり、G20 環境大臣の要請を受けた対応である。

G20 対話は次を実施する。:

**（1）様々な行動と優良事例の継続的な共有**

- G20 議長国は、G20 メンバー各国における進捗を踏まえ、G20 メンバーの資源効率性の向上に関する知見、行動及び優良事例の共有を目的としたG20 対話を開催することができる。
- G20 対話中、G20 議長国又はG20 メンバーのいずれかとG20 議長国との連携・合意により、特定のテーマを設定した上でワークショップ又はセッションを開催することができる。
- 本ロードマップの下で自主的にG20 メンバーが進めているテーマと活動を附属資料にリスト化した。
- 情報の速やかかつ定期的な共有を目的として、G20 対話のウェブサイトを開設する。当分の間、本 Web サイトは、日本国環境省の支援により管理・更新される予定である。
- 各G20 メンバーは、G20 対話のフォーカルポイントを任命し、G20 議長国は、フォーカルポイントのメーリングリストの更新・共有を行う。
- G20 メンバーは、G20 対話の取組への貢献が期待される重要ステークホルダーを特定するよう求められる。それら重要ステークホルダーのメーリングリスト情報は、G20 メンバーの参考資料として保有されうる。

**（2）資源効率性政策の強化・主流化**

- 今後、G20 対話において附属資料に示されたトピックが議論されることを勘案し、G20 メンバーは、持続可能な消費と生産の追求、循環経済、持続可能な物質管理、3R（リデュース、リユース、リサイクル）及び廃棄物の価値化といったアプローチを通じた資源効率性の改善に向け、国内の

状況・優先事項及びニーズを考慮して、様々な環境上の課題に対応し、競争力強化、経済成長、持続可能な資源管理及び雇用創出を拡大するような政策策定や取組を積極的に実施していく。

- 資源効率性の向上に伴う共便益とトレードオフに留意し、G20 メンバーは省庁間の議論及び一層有効な政策調和をこれまで以上に促進する。この点において、G20 対話において他省庁が関連する議題が取り上げられる場合、G20 議長国は様々な省庁を対話に招聘する。

### (3) 資源効率性の測定手法の改善

- G20 メンバーは、特に国際連合、経済協力開発機構（OECD）及び国際資源パネル（IRP）による廃棄物統計や物質フロー指標に関する研究を参照しつつ、資源効率性に関する指標の開発とそのモニタリングに関する国内での取組の共有、統計データに基づく政策進捗モニタリング、国レベルの指標を設定するための能力強化を行うよう奨励される。
- 持続可能な開発目標及び関連ターゲットと指標が有する意欲的な性質を認識し、G20 対話は、資源効率性の測定手法改善の可能性を検討し、G20 メンバーが関連指標のモニタリングを実施することを奨励する。

### (4) イノベーションの促進と機会の創出

- G20 メンバーは資源効率性の改善には技術面と非技術面でのイノベーションが必要であること、また、資源効率性は、あらゆる種類の排出物を削減すると同時に、競争力と経済成長を高め、持続可能な資源管理を実現し、雇用を生み出す潜在性を大いに有すことを認識する。機会を創出し、イノベーションを活性化するため、G20 対話は、B20 などの経済団体とのコミュニケーションを促進する。
- G20 対話は、資源効率性の向上は分野横断的な課題であること理解しつつ、効果的かつ革新的な機会に向けたセクター間取組や議論を促す。

### (5) 多様なステークホルダーの参加促進

- G20 対話は、G20 対話会合で扱う課題に関連する様々なステークホルダーと積極的に連携し、連携強化につながる機会を設ける。
- G20 対話は、関連のある国際機関及びステークホルダーによる科学的知見の形成と普及に向けた活動を歓迎し、G20 対話への関与を引き続き奨

励し、資源効率性に関する科学的知見を共有・集積するよう努める。

**(6) 他の国際イニシアティブとの協力・連携**

- G20 対話は、環境上適正な廃棄物管理を含む、持続可能かつ効率的・効果的な資源利用に関する成果を共有し、行動を促進し、必要な能力を構築するため、資源効率性のための G7 アライアンスを含む世界・地域レベルのイニシアティブとの連携・協力を模索する。
- G20 対話は、状況に応じ前後又は合同で、関連イニシアティブとの会合・ワークショップを開催する機会を検討する。

**(7) G20 海洋プラスチックごみ対策実施枠組との協働**

- 資源効率性と海洋ごみ問題との強い関連性に鑑み、G20 対話は、G20 対話会合の機会と資源を活用し、相乗効果を高め、かつ、重複を最小化するため、共催可能性のある会合の一つとして、G20 海洋プラスチックごみ対策実施枠組と共働し、そのフォローアップ作業を促進することができる。この決定は最終的に G20 議長国に委ねられる。

附属資料

ロードマップ下で G20 メンバーが進める課題と活動

G20 メンバー	課題	活動
EU	プラスチック、繊維及び建設資材	とりわけ製品デザインや消費の段階で対策を講じるための循環アプローチを通じて、プラスチック、繊維及び建設資材の生産、利用、処理が環境と社会に及ぼす影響を軽減するための G20 が起こし得る取組を特定する。
EU	価値保持プロセス	2018 年に IRP が発表した「価値の再定義。製造革命」に基づき、再製造、修復、修理及び直接再利用（価値保持プロセス：VRPs）を推進するための循環経済手段の開発に寄与する。
EU	水資源	水の利用における効率性と持続可能性を高め、貴重な資源の枯渇や劣化を防ぐため、G20 が実施可能な行動を特定する。一例として、水の再利用、脱塩、都市・産業排水が環境に流出する前の適切な処理を通じた行動が挙げられる。
EU	非財務報告	生態系と生態系サービスを意思決定に統合することを目指し、関連アクターと協力しながら、国や企業の意思決定者が様々な製品やプロセスのライフサイクルとバリューチェーン全体での資源利用が自然資本に及ぼす影響や依存についての理解を深め、その測定、勘定及び報告業務をより良く行えるようにするために可能な介入策を特定する。
EU	サステイナブル・ファイナンス	サステイナブル・ファイナンスにおける優良事例（例：グリーンタクソノミー、グリーン金融製品基準・ラベル）の情報交換を活発にし、気候中立性、循環性、資源効率性に優れた経済への移行における民間資金の役割を後押しする

イタリア	グリーン公共調達 (GPP)	公共セクターは、多くの製品とサービスを必要とし、グリーン公共調達を通じて、資源効率性、イノベーション、グリーン経済を民間セクターとの連携を通じて促進する重要な役割を果たす。
日本	アジア太平洋及びアフリカ地域における資源効率性向上に関する国際協力	関連する国際機関や他国と協力しながら「アジア太平洋 3R 推進フォーラム」及び「アフリカのきれいな街プラットフォーム (ACCP)」の下での活動を進め、廃棄物の適正管理、3R 及び循環経済に関する政策・技術の優良事例を提供する。
英国	持続可能な生産	G20 のパートナーとともに、資源効率性と廃棄物の発生抑制に関する情報と優良事例を国際レベルで共有する。この活動には、製品のエコデザイン、消費者情報の改善、産業副産物を含む二次資源の活用の増加が含まれる。
米国	二次資源市場の開発・奨励	二次資源市場の整備と奨励に向けたアプローチを模索する。少なくとも、十分かつ環境に優しく、安定した物資供給が行われるとともに、加工二次資源の需要を拡大させるアプローチを実現する取組を取り扱う。
米国	食品ロスと食品廃棄物	食品廃棄物の測定・削減に関する協力を推進する。

<sup>i</sup> 本附属文書は、G20 メンバーからの要請に応じて更新され得る。